

映像制作概論第7回

K19093 福本光重

- ・日本画：有松の浮世絵、写楽、哥麿
- ・日本画の特徴、西洋画との違い：輪郭線をしっかり書く、肌の影はない、遠近感はあまり描かれていない。

- ・パリ万博の絵画（1867年）
- ・万博初参加、リアルに描くのが西洋の特徴だが、そうではない日本の芸術（浮世絵）がウケた。

- ・アニメ（サザエさんなど）は日本的な描き方になっている。
- ・昔の動画の定義はアニメだった。

- ・AKIRA（アニメ）：海外で大ヒット、科学や宇宙を題材にしたアニメで科学者などに注目された。原画の枚数がとてつもなく多く、映像がヌルヌル動いている。プレスコアリングで作成されている。

プレスコアリング：声優がアフレコをしたあとに、作画をして合わせていく手法。

- ・新世紀エヴァンゲリオン（アニメ）：OP かわいい。後半が静止画をフラッシュ的に入れている。すべて手書き。

- ・劇場版、破：セル画に直描きでなく、コンピュータで描いている。庵野監督が特撮に影響を受けているため、建物の崩壊などは特撮チックになっている。

- ・シン・エヴァンゲリオン：3分割フレーム

- ・ウルトラの慧：撮影の構図、写し方にこだわりを感じる。ウルトラマンや実相寺監督の小ネタや細かい解説を、飽きさせない演出や言い回しで面白かった。

- ・実相寺監督：逆光で見せる戦闘シーン、湖の反射。怪獣目線の撮り方、ストーリー。構図撮り方が面白い。

- ・テレシネ：テレシネとは、24fpsnのフィルムをテレビに映すために、変換する作業

- ・ゴジラ：特撮技術の叡智、

- ・リアプロジェクション：現場で撮影をしながら、怪獣と俳優などを合成する。しかし、明るさに限界がある。基本的に夜のシーンしか撮影できない。

- ・鉄塔がぐにゃっと曲がっているシーン：蟻でつくっている、ところどころ雨を混ぜて粘り気を出している。熱い照明を当てて溶かしている。
- ・鉄塔が落ちるシーン：後ろのスクリーンが動いており、役者は落ちているふりをしている。
- ・ゴジラ登場シーン：